

Take your time
自分の時間を生きて
人と自分を大事にし
一歩ずつ前へ進む

帯山中

progress

おびぶろ

不定期発行

文責
熊本市立帯山中学校
教頭(公認心理師) 田中慎一郎
tanaka.shinichiro@
city.kumamoto.lg.jp

自分を閉じ込めないで…

～外の世界に想いを馳せる～

先日、オンラインのイベントに参加したのですが、話をした方がすごい人で、小野雅裕氏というNASAジェット推進研究所の技術者でした。火星ローバーの自動運転ソフトウェアの開発をしているそうです。講話終了後に質問タイムで小学生の女の子が「どうして、宇宙は無重力なんですか？」と小野さんに尋ねました。みなさんは、この質問を聞いてどう感じるでしょうか。これに対し小野さんは「どうして、地球には重力があるんだろうね？そっちの方が不思議じゃない？」と答えたのです。確かに言われてみればそうです。常に下に引っ張られていることが不思議で、ぷかぷか浮かんでいるのが当たり前。しかも、引っ張られる方向が、上でも横でもなく下であるのも不思議です。自分たちの下に何があるのだろう？

と新たな疑問がわきます。人の考え方や感じ方は、その人が立っている場所が変わってきます。宇宙のことばかりを考えて仕事している小野さんは、いつも心が宇宙にいます。一方、質問をした女の子は、地球にいます。彼女の世界のすべては地球であり、そこに限定したものの感じ方や捉え方となるのは自然です。ただ、考えてみると地球は宇宙の中に存在するので、女の子は地球というよりも宇宙の中に存在することになります。女の子にはそれが気づけていないのです。仕方がないことかもしれませんが、人は自分の見える世界を世界のすべてと捉えてしまっているところがあります。自分に見えるものや聞こえてくるものがすべてであり、それ以外のものは存在すらしないと捉えがちなのです。しかし、これは事実ではあ

りません。ちゃんと、地球の外に宇宙は存在します。

これを人生に置き換えるとしたら、中学生にとっての人生は、13年、14年、15年です。もちろんその先を見たことはまだないので、その13年、14年、15年で、すべてを判断しても仕方ありません。しかし、人生はその後何十年と続きます。仮に80歳まで生きたとするならば、まだ8分の1くらいしか知らないことになり、8分の1の世界をすべてと捉え、もう自分はダメだと感じている人もいるかもしれませんが、そんなことは決してありません。自分が見えていない世界もちゃんと存在するのです。

地球という世界に閉じこもっていても、手に持っている物が手を離せば下に落ちるのは常識と思い、逆にぷかぷか宙を浮かぶ世界を異常と考えます。しかし、意識を宇宙にやると今までそうであるに違いないと思っていた常識こそがおかしいのかもしれないと感じることが出来ます。

自分が見えていたり聞かえていたりする世界がすべてではありません。自分を狭い世界に閉じ込めるのではなく、まだ見えていない広い世界を想像してほしいと思います。

つらさや寂しさを感じている人が立っている場所をトンネルに例えるのであれば、そこがトンネルであることは、出てから初めてわかります。中にいるときは、ただの暗闇。歩いた先が明るくなるなんて思えません。でも、外の世界は必ず存在します。

冒頭の小野さんは火星の上でどうやって車を自動運転させるかを常日頃から考えています。小野さんの姿をとおして、自分の未来に想いを馳せてほしいと願います。子供が大人と圧倒的に違っているのは可能性の大きさです。私のような大人より、まだ人生を歩みだしたみなさんの方が外の世界は広いはず。どうか狭い世界に自分を閉じ込めないで



ぼちぼちいこう

little by little



車とバイクどちらが好きか？と聞かれれば、どっちも好きな田中です。バイクは30代前半で泣く泣く手放しちゃったんですけどね…ところで、最近の車って性能がすごいですよ。私は、一度購入したらずっと乗り続けるタイプなんですけど、故障が多くなったので1年ほど前に買い替えました！別に高価な車という訳ではないのですが、メールアドレスを登録しておくと、鍵や窓の閉め忘れとかライトの消し忘れなど、車がメールで教えてくれるんです！だから、メールを受け取り「あっ、窓が開いてる！」と車に戻ることもしばしば▼ある日のこと、帰宅して車を駐車場に置いて、急いで自転車に乗り換え街中に行かなければならぬことがありました。汗かきまくりで自転車を漕ぎ、街に着いた途端に同じマンションの知り合いから「田中さん、車の電気がついてますよ。」と電話。時間がないけど、バッテリーが上がるといけないので慌てて電気を消しに家に戻ります。車にたどり着くと確かにつけばなしになっていました。、すると車からのメール着信…「車の電気がついてます！」▼今ですか(-_-) それわかってます… 嫌がらせか！というタイミングでのメール。いつもは、忘れの直後に届くのに、車は私に自転車の往復をさせたかったのかと悪意さえ感じます…▼結局、人に助けられました。やっば、近所づきあいつって大切だなんて感じています。「田中さん慌てて出て行ったから、何か忘れてる気がしたんです。」とその人から言われました。私が忘れる前から察知するとはすごい能力です。車も私が何かし忘れしそうな前に、「この後、何かやらなきゃいけないことを忘れちゃダメよ！」とアドバイスをしてくれないかなと思いました(笑) やっばり、私は、どんなに物の機能が進化しても人を大事にしたいです。